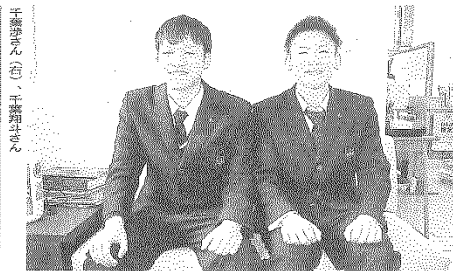


# 秋田での日々を礎に・・・

3月11日（月）付「朝日新聞 秋田版」に本校卒業生である千葉翔斗くん、千葉渉くんのインタビュー記事が掲載されました。2人はともに宮城県石巻市出身で、3年間本校で学びました。8年前の震災を乗り越えて、今春新たな世界へ旅立つ彼ら。秋田での日々を礎に、これからも活躍してくれることでしょう。



**県内への避難者にアンケート**  
**秋田に「定住」「定住希望」58世帯**

秋田を新たな「旅のすみか」に定住しようとする人も、県が昨夏、被災、避難した宮城県からの避難者に実施したアンケート（100世帯）では、秋田に「定住したい」「すでに定住している」と答えたのは、計58世帯を数えた。

一方、「いずれは帰郷したいが時期は未定」としたのは18世帯。未定の理由として「両親、教師を念慮した」「放射能の影響が不安が多かった」「被災地への支援活動が中心で、帰郷が難しい」という理由が挙げられた。被災者のつらさが、秋田への定住につながっている。

被災8県からの避難者は1日現在、2万7千世帯5万1人、ピークだった2011年の3月の2万7千世帯5万1人（うち1万5千世帯3万6千人）を占めている。

## 秋田で故郷で 夢へ一歩

8年前の東日本大震災は、多くのものを奪い去った。それでも思いは受け継がれ、新たな夢も生まれた。被災した人たちがこの春、次の目標に向けて、秋田で、あるいは秋田を離れ、新たな一歩を踏み出す。

**今春卒業 帰郷し恩返し**  
**石巻出身 千葉渉さん（18）・千葉翔斗さん（18）**

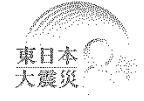
宮城県石巻市出身の千葉渉さん（18）と千葉翔斗さん（18）は、秋田修学院大（大）に入学し、3年間を秋田で過ごす。この春卒業し、秋田を離れ、それぞれの夢を叶える。

渉さんは、修学院大で3年間の生活の中で、秋田の自然や人々の温かさを感じた。翔斗さんは、秋田で過ごす中で、自分なりの夢を見つけた。両人は、秋田での日々を礎に、これから活躍してくれる。

**カメラを肩に 秋田を切り取る**  
**大槌出身 小川秀峻さん（20）**

宮城県大槌町出身の小川秀峻さん（20）は、4月に秋田県立大に進学し、カメラを肩に秋田を切り取る。大槌から秋田まで、約1000キロの距離を、カメラを通してつなぐ。

小川さんは、大槌で育ち、大槌の風景や人々の生活が好き。秋田に来た後、大槌の風景を撮影し、秋田の人々に紹介したい。大槌の魅力を、秋田を通じて広げたい。



東日本大震災  
 被災地への支援活動